証券コード：7963

第54期 報告書

平成28年 1月 1日～
平成28年12月31日

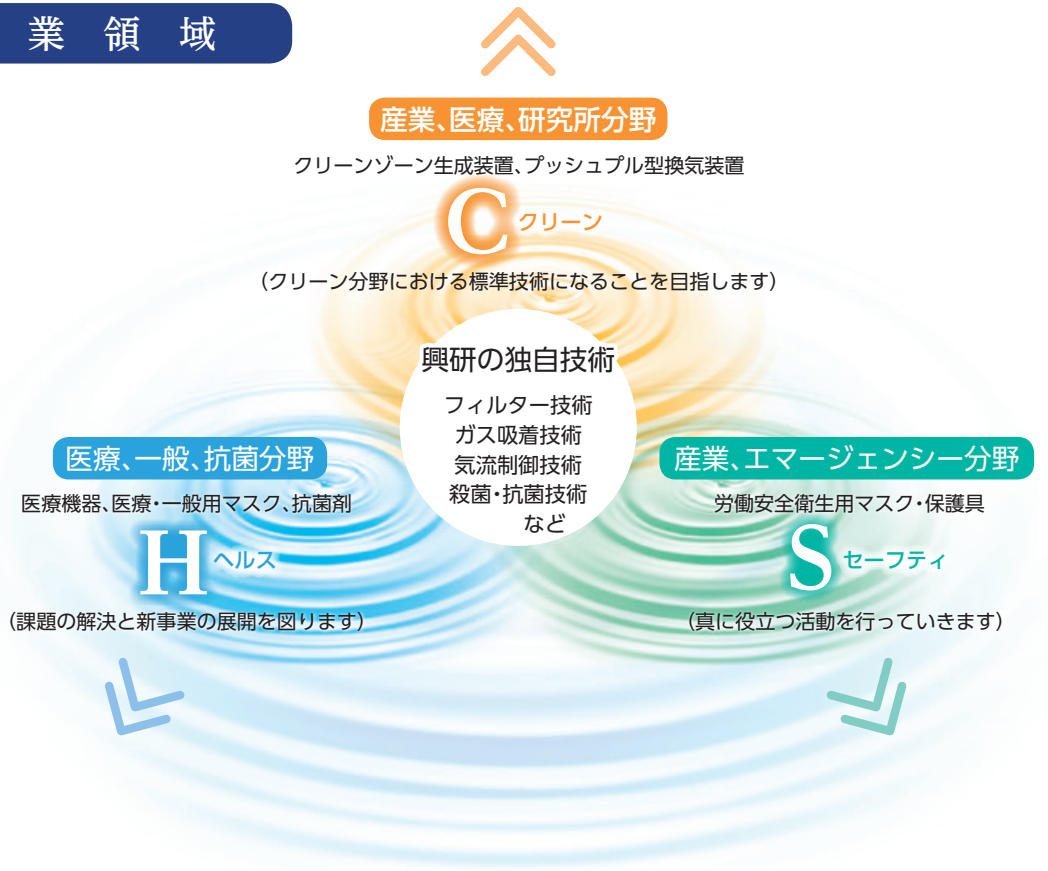
「世の中にない」「真に役立つ」
それが、私たちの研究開発の出発点です。

クリーン、ヘルス、セーフティで社会に
興研株式会社

経　営　理　念

1.人を育てる
2.技術を育てる
3.クリーン、ヘルス、セーフティの分野で新市場を育てる
（クリーン、ヘルス、セーフティで社会に貢献する）

事　業　領　域



株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループ第54期（平成28年1月1日から平成28年12月31日まで）の概要等につきましてご報告申し上げます。

代表取締役副社長
堀口展也

代表取締役会長
酒井眞一郎
（登記名 眞一）

代表取締役社長
村川　勉

昨年の半ばを過ぎた頃より世界は不確定の闇に見舞われてしまいました。イギリスのEU離脱問題、そして予想外のアメリカトランプ大統領の誕生は、どちらも変動を嫌った大方の予想を裏切ったもので、次にくるかもしれない大激震の予感を伴い、私たちの心に大きなショックとして突き刺さるものでした。

ここ数年、底流として存在した反グローバリズムがIS問題を契機に噴火したものと思料されます。

これが世界経済に大激動を与えるものか、それとも現世界の中に少しずつ調和しながら落着くものかは誰も見通すことはできないでしょうが、企業としては先行きの見通せない中での経営を強いられることは確かと思われます。

弊社は、①「人を育てる」、②「技術を育てる」、③「クリーン、ヘルス、セーフティの分野で新市場を育てる」を理念として経営しておりますが、このような先行きの見えない時こそ、この基本理念に立ち返り、企業行動の一つひとつを強化することが重要であると考えております。

現在のところ弊社は、この3つの理念の中で「技術を育てる」が突出して成果を見せていますが、株主の皆様の期待により応えるには、「新市場を育てる」を強化することが喫緊の最重要課題と考えております。

特に「クリーン」の分野でのKOACH市場育成は急務と考えており、過去の常識を覆すべく、（単にクリーンデバイスを持つだけでは駄目で、作業中にクリーンを保つことを本来とすべきとする）『アクチュアルクリーン』啓発運動を力強く推進し、新市場育成を達したく存じています。

さらに弊社は、長年の夢である『飯能先進技術センター』の建設を決意しました。これまでの強みであった新技術の開発を一層強化し、大学、研究機関、他社等々とのコラボレーションを図ることで、社会に大きく貢献できる企業になるためには避けることができない投資として決断したものであります。

これ等足下の事案を一つひとつクリアすることによって、打ち寄せる激動を乗り切っていく所存であります。

株主の皆様におかれましても、引き続き長い目でご期待頂き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年3月

営業の概況

当連結会計年度(平成28年1月～12月)における我が国経済は、海外経済の減速や為替変動の影響が成長率を下押しする一方、公的需要の増加や個人消費の底入れに支えられ、緩やかな回復基調で推移したものの、中国経済、英国のEU離脱問題、米国のトランプ政権の決定の影響など、先行きの不透明感がさらに拡大しました。

このような経営環境の中、当社グループでは『クリーン、ヘルス、セーフティ』の3市場に対する戦略商品の普及、及び新規物件の受注活動を継続して行った結果、前連結会計年度に比べ増収増益となりました。

売上高は、79億36百万円(前連結会計年度比1.9％増)となり、利益については、海外生産子会社の本格稼働及び全社を挙げた業務効率化なども寄与し、営業利益6億34百万円(同20.5％増)、経常利益5億54百万円(同23.5％増)、親会社株主に帰属する当期純利益3億88百万円(同63.3％増)となりました。

セグメント別の業績は以下の通りです。

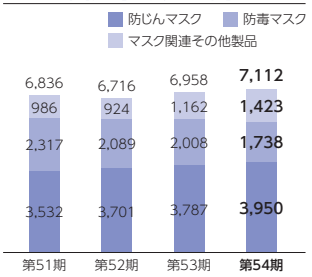
マスク関連事業

売上高　71億12百万円 (前期比2.2％増)

製造業向けを中心とした産業用の防じん・防毒マスクの販売は予想以上に堅調で推移しました。また前年度末からリフラクトリーセラミックファイバー対策用などで需要が急増した電動ファン付き呼吸用保護具「BL」シリーズの販売が、売上高を押し上げました。また使い捨て式マスクについても、医療用、一般用(中国向け含む)の需要増加に対応し売上を伸ばしました。

電動ファン付き呼吸用保護具
「BL」シリーズ

マスク関連事業売上高 (単位:百万円)



(注) 1. 第52期より、連結決算に移行しております。
2. 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

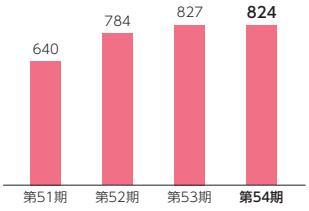
その他事業(環境関連事業等含む)

売上高　8億24百万円 (前期比0.4％減)

オープンクリーンシステム「KOACH」の販売は『アクチュアルクリーン(実際の作業時の清浄度)』を訴求する営業活動を代理店、販売店と協働して行った結果、ベンチ型「スタンドコーチ」の民間企業での採用増加などで、販売件数は前年度を上回りましたが、売上高については、前年度に納入したルーム型の大型物件(重力波望遠鏡施設かぐら)の反動減を補うまでには至りませんでした。

オープンクリーンシステム
「KOACH」スタンドコーチ

その他事業売上高
(環境関連事業等含む) (単位:百万円)



(注) 1. 第52期より、連結決算に移行しております。
2. 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

対処すべき課題

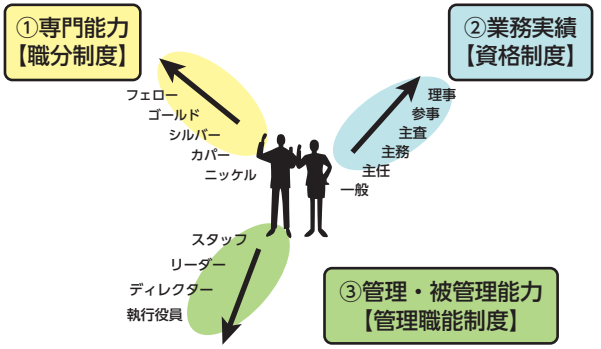
当社グループは、企業価値のさらなる向上と持続的な発展・成長を実現するために、3つの経営理念①「人を育てる」、②「技術を育てる」、③「クリーン、ヘルス、セーフティの分野で新市場を育てる」を掲げ、それを長期的な課題として取り組んでおります。

①人を育てる

当社グループは、社員の生きがいと企業の存続を両立させてこそ企業としての存在価値があり、また社員の幸福や生きがいは、雇用された社員の尊厳が、企業の活動の中にも存在していることが重要との考えに立った人事管理制度 興研トータル人事システム「HOPES（ホープス）」を確立し、20年以上に亘って運用してきました。

この制度は、専門能力、業務実績達成能力、管理能力をそれぞれ別の能力と見て、社員一人ひとりを3つの角度から独立して評価・運用した多様性を受容する人事システムです。この制度を礎に、社員自らが研鑽を重ね、各分野を支える担い手に成長し、当社オリジナルの成果を実現して社会に貢献して参りました。

当社グループは、この「HOPES」を不変の柱として、多様な人材の活用と成長を図って参ります。



HOPES モデル図

②技術を育てる

当社グループが創業以来、守り続けてきた「他社に追随しない」「徹底的に研究する」という研究開発の理念を技術開発員一人ひとりに徹底・浸透させるため、マトリクス型の研究開発体制や人事評価として技術専門能力を高めるマイスター制度、全技術開発者と全取締役参加による月例研究発表会などの仕組みを作り、運用しています。その結果、オンリーワン、ナンバーワン製品が次々と生まれ、特許、意匠、商標、先使用権を合わせた知財保有件数は、平成28年末現在、国内166件、海外80件となっています。

当社グループは、『クリーン、ヘルス、セーフティ』各分野の事業拡大・発展に資する先進技術を生み出す研究開発拠点として「飯能先進技術センター」の建設を決定いたしました。竣工は平成30年を予定しており、同センターから新たな技術革新が始まります。

飯能先進技術センター　完成予想図

③クリーン、ヘルス、セーフティの分野で新市場を育てる

当社グループは、独自技術による様々なソリューションを提供することで、新しい市場を創造・育成し、各分野の課題解決を図ります。

＜クリーン＞クリーン分野における標準技術になることを目指します

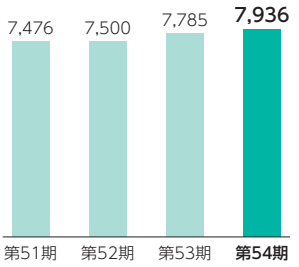
＜ヘルス＞課題の解決と新事業の展開を図ります

＜セーフティ＞真に役立つ活動を行っていきます

財務ハイライト

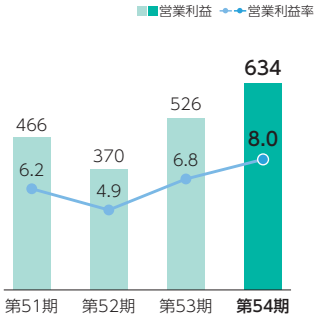
売上高

(単位:百万円)



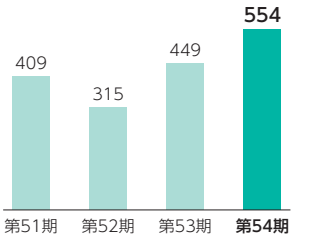
営業利益／営業利益率

(単位:百万円／%)



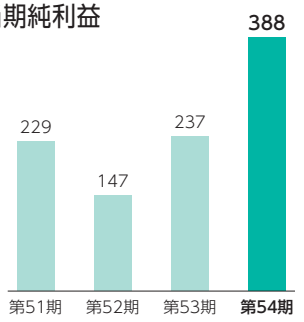
経常利益

(単位:百万円)



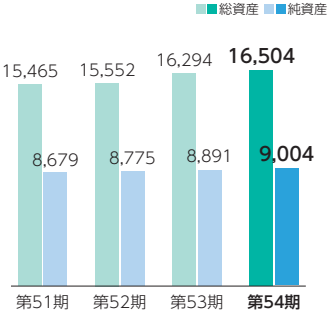
親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



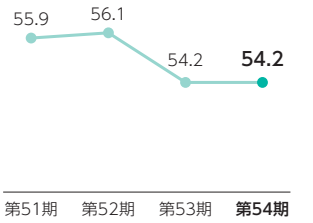
総資産／純資産

(単位:百万円)



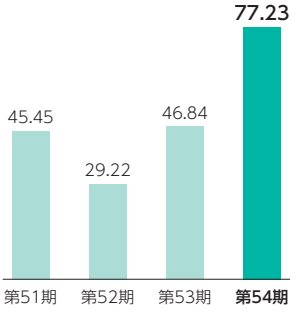
自己資本比率

(単位:%)



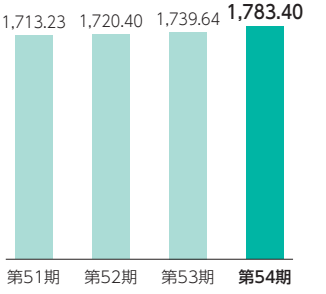
1株当たり当期純利益

(単位:円)



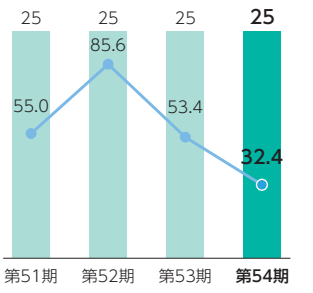
1株当たり純資産額

(単位:円)



1株当たり配当金／配当性向

(単位:円／%)



(注) 1. 第52期より、連結決算に移行しております。
2. 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	第54期 平成28年12月31日現在	第53期 平成27年12月31日現在
【資産の部】		
流動資産	7,129	6,772
固定資産	9,374	9,522
① 資産合計	16,504	16,294
【負債の部】		
流動負債	3,751	3,656
固定負債	3,748	3,746
② 負債合計	7,500	7,403
【純資産の部】		
株主資本	8,955	8,787
資本金	674	674
資本剰余金	527	527
利益剰余金	7,887	7,626
自己株式	△134	△40
その他の包括利益累計額	△11	42
新株予約権	60	60
③ 純資産合計	9,004	8,891
負債・純資産合計	16,504	16,294

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	第54期 平成28年 1月 1日から 平成28年12月31日まで	第53期 平成27年 1月 1日から 平成27年12月31日まで
売上高	7,936	7,785
売上原価	4,172	4,241
売上総利益	3,764	3,544
販売費及び一般管理費	3,129	3,018
営業利益	634	526
営業外収益	19	26
営業外費用	99	103
経常利益	554	449
特別損失	0	0
税金等調整前当期純利益	554	449
法人税、住民税及び事業税	210	183
法人税等調整額	△43	28
親会社株主に帰属する当期純利益	388	237

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

	第54期 平成28年 1月 1日から 平成28年12月31日まで	第53期 平成27年 1月 1日から 平成27年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	830	707
投資活動によるキャッシュ・フロー	△245	△1,217
財務活動によるキャッシュ・フロー	△353	382
現金及び現金同等物に係る換算差額	△9	△6
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	221	△134
現金及び現金同等物の期首残高	1,777	1,911
現金及び現金同等物の期末残高	1,999	1,777

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

財政のポイント

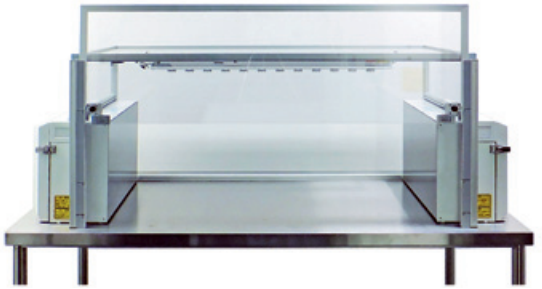
Point1 資産
資産合計が前期末に比べ2億9百万円増加した主な要因は、流動資産が受取手形及び売掛金が減少した一方、現金及び預金、商品及び製品が増加したこと等により3億57百万円増加したことと、固定資産が減価償却の実施等により1億47百万円減少したことによるものです。

Point2 負債
負債合計が前期末に比べ96百万円増加した主な要因は、流動負債が賞与引当金の増加等により95百万円増加したことによるものです。

Point3 純資産
純資産合計が前期末に比べ1億12百万円増加した主な要因は、利益剰余金が2億61百万円増加したことによるものです。その結果、自己資本比率は54.2%(前連結会計年度末54.2%)となりました。

オープンクリーンシステム「KOACH」が米国科学誌で論文公開

当社グループは、科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業の一環である『DNA解析用卓上型クリーンルームの開発』(広島大学、農研機構の共同研究)にオープンクリーンシステム「KOACH」の製造メーカーとして参加し、その成果が米国科学誌「BioTechniques」オンライン版で論文公開されました。



卓上型エクストラクリーンルーム
テーブルコーチ「KOACH T 500-F」+飛来物防止板(フード)+イオナイザ(除電器)

掲載誌

「BioTechniques」(Vol. 61, No. 1, July 2016, pp. 42–46)

論文のタイトル

(英文) Development of a bench-top extra-cleanroom for DNA amplification
(和文) DNA増幅のための卓上型エクストラクリーンルームの開発
(doi) 10.2144/000114433

論文のポイント

- すべてのDNA解析方法において、外来DNAの混入は重大で防ぎにくい問題だった。
- 空気中を浮遊する微粒子が主な汚染源であり、実験器具の静電気も重大な要因であることを明らかにした。
- DNAの混入をほぼ完全に防止できる、DNA増幅用の卓上型クリーンルームを開発した。

世界最上級のクリーン手袋を共同開発

「KOACH」は、周りを囲うことなく短時間かつ低消費電力で世界最高クラスであるISOクラス1の清浄空間を形成するクリーンシステムとして、産業技術総合研究所様、理化学研究所様、京都大学iPS細胞研究所様、東京大学宇宙線研究所様等の研究施設ほか、民間企業にも採用が拡がりつつあります。また「KOACH」の開発者は、第6回ものづくり日本大賞内閣総理大臣賞を受賞しております。

当社グループでは、この「KOACH」の販売活動の中で、従来品に比べ、より発塵の少ないクリーンルーム用手袋を求めるユーザーが多数存在することを知ると同時に、「KOACH」内で製造・梱包すれば、“世の中で最も発塵しない”クリーンルーム用手袋の製品化が可能との発想に至りました。

そこで創業80年を超えるゴム・プラスチックの総合メーカーとして産業用から生活用品まで高い技術力を誇る「オカモト株式会社」が手袋自体の低発塵化を図り、かつ当社グループのスーパークリーン技術と融合することで世界最上級の清浄度・低発塵のクリーンルーム用手袋が生み出せると考え、商品化を目指すことといたしました。

平成28年末にはサンプル出荷を開始し、平成29年3月から発売しております。

特長など

- 製品名　ピュアネスゼロワン
- 世界初！※ ISOクラス1の環境で梱包されたクリーンルーム用手袋
- 徹底的な低発塵化を図り、世界最高レベルのクリーン環境で製造・梱包
- 1双ずつ個装されているので、最後まで綺麗な状態で使い続けることが可能
- 左右別型で豊富なサイズ展開なのでフィット感が良く、手先の細かい作業にも適する

※当社調べ

ピュアネスゼロワン

被災地への支援としてマスクを寄贈

当社グループは熊本地震で被災された皆様の救済や被災地の復旧、復興にお役立て頂くため、日本赤十字社を通じ義援金の寄付を行いました。

そして、復旧作業での災害防止並びに被災地域住民やボランティアの皆様の粉じんへのばく露防止のため、公益社団法人日本保安用品協会を通じて当社製使い捨て式防じんマスク「ハイラック」シリーズや、石綿対策用防じんマスク等を熊本県、被災地域の各自治体、企業、団体等へ寄贈いたしました。

また、台風10号の水害に遭われた自治体に対しても、その地域住民やボランティア用として使い捨て式防じんマスク「ハイラック」シリーズの寄贈とともに、マスクの使用方法等のご説明をさせて頂きました。

そのような活動に対し、環境大臣、熊本県環境生活部長、岩手県岩泉町長より、感謝状を頂戴しております。

今後も当社グループは、微力ながらマスクメーカーとして支援活動に取り組んで参ります。

寄贈したマスク類

使い捨て式防じんマスク
「サカヰ式ハイラック355型」

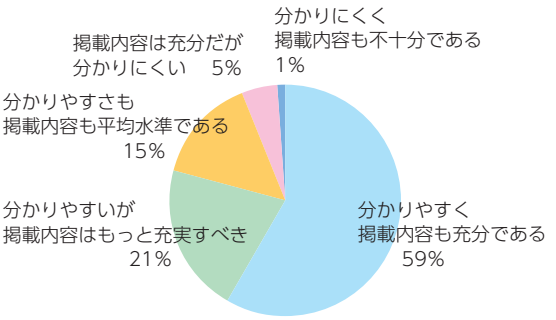
石綿対策用防じんマスク
「サカヰ式7191DK型」

株主アンケート結果

前回「第53期報告書」にて実施した株主アンケートの集計結果をご報告させて頂きます。当社では一つひとつのご意見を真摯に受け止め、IR活動の参考とさせて頂きます。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

Q 事業報告書の掲載内容についてお聞かせください。



Q 当社に対するご意見をお聞かせください。

- 世界の安心、安全のため、貴重な技術をお持ちの会社と存じます。継続的な業績発展をお祈りします。
- KOACHとイマディーズに次ぐ開発に期待しています。
- 積極的な株主還元を希望します。
- 有事でなくても株価が上昇する経営をお願いします。

など

会社情報（平成28年12月31日現在）

会社概要

商号	興研株式会社　(英文社名) KOKEN LTD.
創業	1943年(昭和18年) 5月10日
設立	1963年(昭和38年) 12月12日
資本金	674,265,291円
本社所在地	東京都千代田区四番町7番地
従業員数	連結268名(うち当社222名)
上場証券取引所	東京証券取引所　JASDAQスタンダード
事業内容	防じんマスク、防毒マスクなどの労働安全衛生保護具及び環境関連機器・設備の製造、販売

株式の状況

発行可能株式総数……20,000,000株
発行済株式の総数……5,104,003株
株主数……2,547名

大株主(上位5名)

株主名	所有株式数（株）	持株比率（%）
酒井眞一	641,000	12.70
酒井宏之	609,400	12.08
公益財団法人酒井CHS振興財団	400,000	7.93
株式会社りそな銀行	244,300	4.84
酒井香織	229,600	4.55

(注) 持株比率は、発行済株式の総数(5,104,003株)から自己株式数(57,807株)を控除した株式数(5,046,196株)を基準に算出し、小数点第3位以下を四捨五入して表示しております。

役員（平成29年3月28日現在）

代表取締役会長	酒井眞一	常勤監査役	秋山俊雄
代表取締役社長	村川勉	常勤監査役	伊藤善博
代表取締役副社長	堀口展也	社外監査役	階戸照雄
専務取締役	村松光二	社外監査役	白日光
専務取締役	田中文和		
常務取締役	井端秀明	常務執行役員	齊藤雄司
取締役	長坂利明	執行役員	木村一志
取締役相談役	酒井宏之		
社外取締役	櫻井しのぶ		

事業所・グループ会社

本社／東京
研究所／飯能
KOKEN スーパークリーンテクニカルセンター／埼玉
テクノヤード／狭山、群馬、所沢、中井、嵐山
配送センター／埼玉
営業所／全国16カ所
KOACHショールーム／東京、名古屋、大阪、九州
連結子会社 SIAM KOKEN LTD.／タイ王国チョンブリ県

株主優待制度のご案内

当社グループでは、株主様の日頃からのご支援に対し、「株主優待制度」を導入しております。本制度は単なる物質的な株主還元だけではなく、株主様への安全、安心のご提供を目的としています。ぜひご利用ください。

▶ご優待内容

当社製品の優先購入ができる『優先購入券(**KOKEN 安全・安心チケット**)』を保有株式数、保有年数に応じて贈呈。

▶対象となる株主様

毎年6月末日現在の株主名簿に記録されている1年以上かつ1,000株以上ご所有の株主様。

※『優先購入券(KOKEN 安全・安心チケット)1年間有効』には、100%割引と30%割引の2種類がありそれぞれ購入の上限数を設定しております。

▶ご優待品

感染対策用マスク「ハイラック」シリーズ　避難用マスク「ライフマスター」

優先購入ができる製品類

株主優待に関するお問い合わせ先

TEL：03-5276-1932　FAX：03-5276-6530　e-mail：ir@koken-ltd.co.jp
当社**広報・IR室**までお問い合わせください。

「世の中にない」「真に役立つ」が、私たちの研究開発の出発点

「世の中にない」「真に役立つ」を研究開発の出発点とし、“大きい企業”ではなく、規模の拡大はゆっくりであっても、世界にない、当社にしかできない「オンリーワン」「ナンバーワン」の技術・製品を持つ“強い企業”＝「技術立社」になることが私たちの目標です。この特集では、興研の研究開発についてご紹介いたします。

第2回　オープンクリーンシステム「KOACH（コーチ）」の開発

● スーパークリーンをコモディティに ●

開発の経緯

局所的なクリーンルームとして半導体、医薬品をはじめ、病院、研究施設などで使用されているクリーンベンチは、高い清浄度を確保するため囲いで仕切られた閉塞構造をしており、作業性は決して高くありません。またそのほとんどが作業台を兼ねた据え置き型のため、自由な移動や設置が困難という問題点もあります。

当社は医療、産業分野における有害物質のばく露対策用として多数の納入実績を持つ開放式プッシュプル型換気装置の一様流技術と新開発の対向型気流技術を組み合わせることで、開放構造でありながら、従来のクリーンベンチと同等以上の清浄度（ISOクラス5）を確保したうえ、作業性や設置対応性に優れた世界初※1の開放式のクリーンシステム「KOACH」を開発いたしました。

その後「KOACH」は、当社開発のナノファイバー製エアフィルタ「FERENA（フェリナ）」を搭載し、世界最高水準※2のスーパークリーンを達成し、さらに直角合流技術の開発、積み木方式やガイドスクリーンの採用によるクリーン空間の拡張に成功するなど、大きな進化を遂げました。

現在「KOACH」はテーブル型、スタンド型、ルーム型の豊富な製品群によって様々な場所や使い方に対応できるシステムとして認知・導入が進んでいます。

開発当初の「KOACH」

※1 当社調べ
※2 ISO 14644-1（JIS B 9920）に基づく試験結果、清浄度ISOクラス1

主な特長

①囲わないから作業がしやすい
3方向が開放されているため作業性が高く、スタンド型は並び作業、対面作業も可能です。

②設置が簡単だから短工期で導入できる
シンプルな構造のためルーム型でも建屋を造る必要がなく、短期間の工期で済みます。

③スイッチを入れたらすぐにクリーン空間ができる
テーブル・スタンド型は1～2分、ルーム型は5～10分程度で清浄化します。必要ない時間は停止しておくといった使い方もできます。

④一旦汚れても素早くクリーンに戻る
人体などからの発塵があっても速やかに排除し、アクチュアルクリーン（実際の作業時の清浄度）を保ち続けます。

⑤地震に強いからBCPに役立つ
天井に重量物のない地震に強い構造です。

⑥大幅な消費電力削減が見込める
システム自体が低消費電力のため、ランニングコストを抑えることができます。

テーブル型

スタンド型

ルーム型

VOICE

開発に携わって

第6回ものづくり日本大賞の内閣総理大臣賞を頂いた「KOACH」は、世界最高水準ISOクラス1の清浄空間を開放状態のままどこでも簡単に形成できます。しかし、開発当初は製品コンセプトがあまりにも非常識であったが故に、展示会に出展した際、お客様から懐疑的な反応しか得られなかったことを思い出します。

その後クリーンルームの世界で認知され始め、その結果、研究、産業分野を問わず「KOACHがないとできない」、展示会でも半数以上のお客様から「これが噂のKOACHか」といった声が聞けるなど、発売当初と比べると隔世の感があります。

「KOACH」は、マスクのフィルター技術とプッシュプル型換気装置の気流技術の両方を持ち合わせていた当社だからこそ完成に至ったオリジナリティに溢れる製品と言っても過言ではありません。

今後も、お客様に必要不可欠だと言って頂ける真に役立つ製品をどんどん生み出し、新しい市場を切り拓いていけるよう努力を続けて参ります。

・技術本部 飯能研究所
・マーケティング本部
環境エンジニアリングディビジョン
技術開発セクション

株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
定時株主総会	3月
基準日	12月31日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	同上
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711(フリーダイヤル)
上場証券取引所	東京証券取引所(JASDAQ)
公告の方法	当社ホームページに掲載 http://www.koken-ltd.co.jp/ ただし、やむを得ない事由にて電子公告が行えない場合は、日本経済新聞に公告いたします。

各種お手続きについて

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
   株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、口座管理機関の三菱UFJ信託銀行までお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り次ぎいたします。
   (お問い合わせ先)
   三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
   ・連絡先　0120-232-711（フリーダイヤル）
   ・ホームページ　http://www.tr.mufg.jp/daikou/
   ・電話による用紙請求（24 時間自動音声応答サービス）
   0120-244-479（フリーダイヤル）
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

当社のホームページから最新の会社情報や決算短信など詳細な IR 情報がご覧頂けます。ぜひご活用ください。

http://www.koken-ltd.co.jp/

トップページ

IR 情報サイト

株主の皆様の声をお聞かせください

**当社では、株主の皆様の声をお聞かせ頂くため、
アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、
アンケートへのご協力をお願いいたします。**

下記ＵＲＬにアクセス頂き、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

http://www.e-kabunushi.com
アクセスコード 7963

いいかぶ　検索

空メールによりURL自動返信
kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答頂いた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円）を進呈させて頂きます

※本アンケートは、株式会社 a2media（エー・ツー・メディア）の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
（株式会社 a2mediaについての詳細http://www.a2media.co.jp）
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させて頂き、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」
TEL:03-5777-3900 (平日 10:00～17:30)
MAIL:info@e-kabunushi.com

クリーン、ヘルス、セーフティで社会に
興研株式会社
〒102-8459 東京都千代田区四番町７番地

VEGETABLE OIL INK

UD FONT 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。